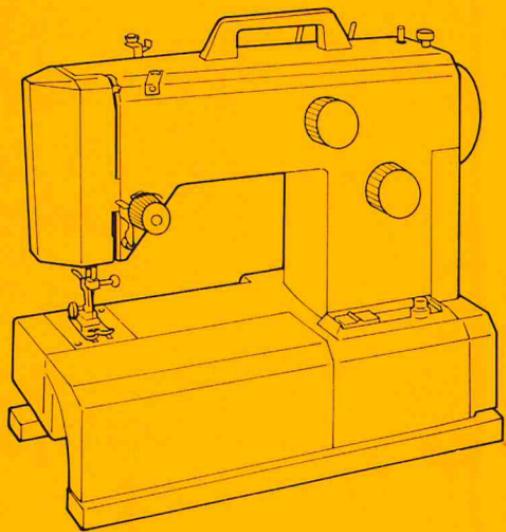
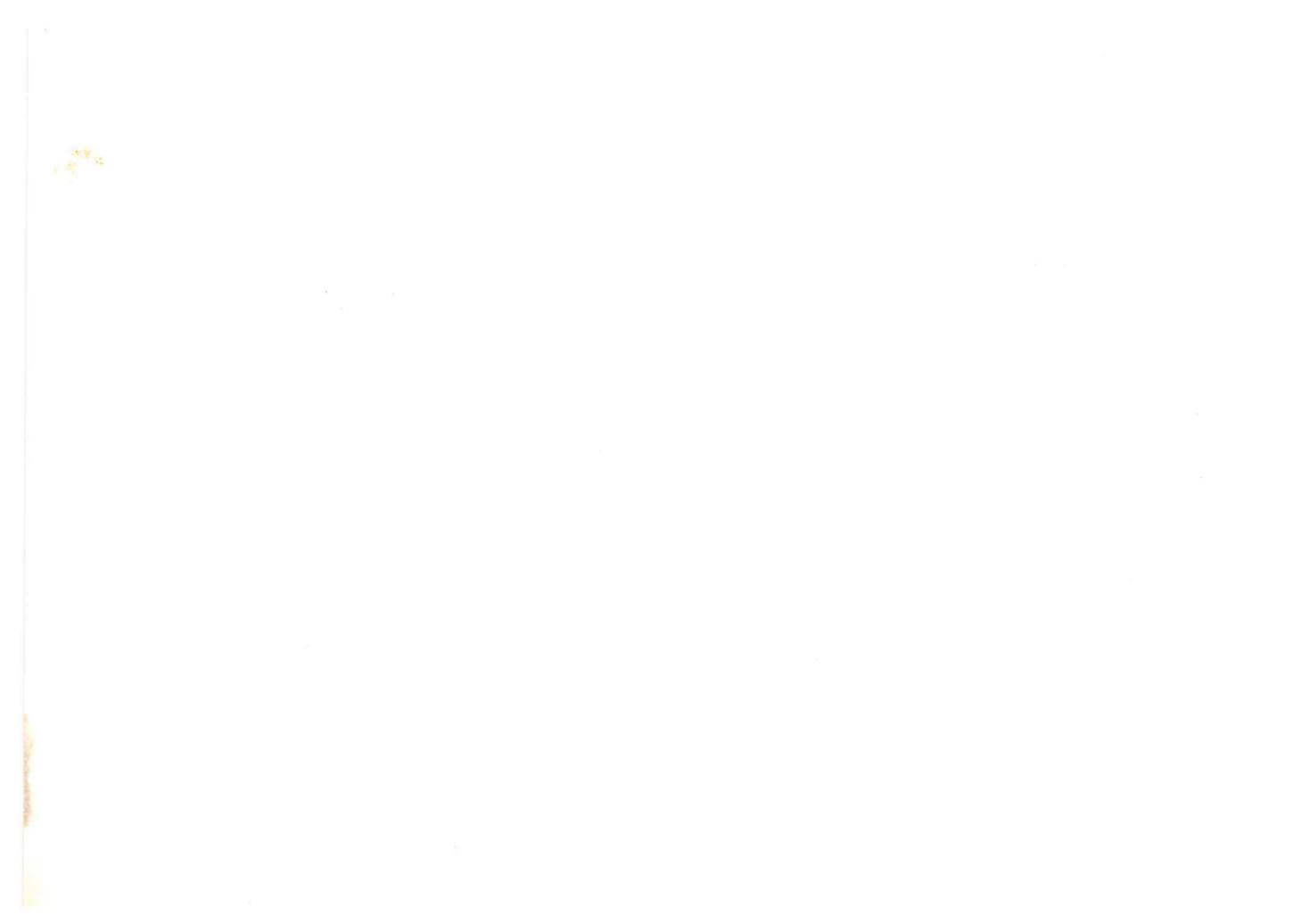


取扱説明書



●ご使用前に必ずお読みください。



＊ ご使用になるまえに＊

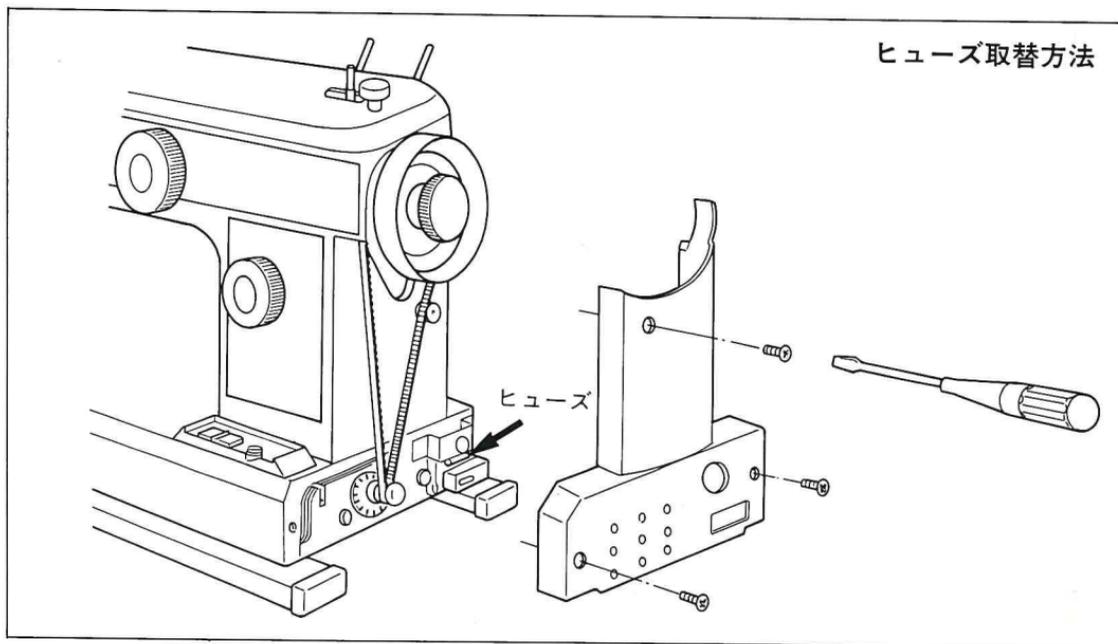
このフリーアーム電子ミシンは各操作部をはじめ、あらゆる個所の安全性を充分考慮し設計されておりますが、特に下記のことからについて御注意の上ご使用下さるようお願い致します。

1. 電氣的セット（ミシンモーター及びランプの電源コード）はミシンから離れる時、又掃除及び注油、附属品の交換等の際は、プラグを必ず電源より取りはずしてから行って下さい。
2. ミシンの作動中は、上下する針元をよくみて、手に充分注意して裁縫して下さい。
3. 又、作動中は天びん（4ページ参照）附近には、できるだけ顔を近づけぬようにして下さい。

＊ご 注 意

この電子ミシンは、電子コントローラーにより速度を調節する方式をとっていますので、過電流の時、ヒューズが切れる場合があります。

これは故障ではなくヒューズを取替える事によって回転します。
(ヒューズは、管形ヒューズ 125V 2A 電器店でお買い求め下さい。)



部品の名まえ	4
通電と始動の方法	5
主な部品の働き	6
附属品の内容	7
縫う前の準備と知識	
フリーアームミシンの特徴	8
補助テーブルの扱い方	9
針のとりつけ方	10
各種押えのとりかえ方	11
ポビンケースのとり出し、とりつけ方	12
下糸の巻き方	13
ポビンケースに下糸の通し方	14
上糸のかけ方	15
下糸の引き上げ方	16
上糸調子のとり方	17
織物と布地、糸・針の関係	18
各ダイヤルのはたらき	19

直線縫い

直線縫いのセット	20
縫い方向のかえ方	21
縫いおわり	21

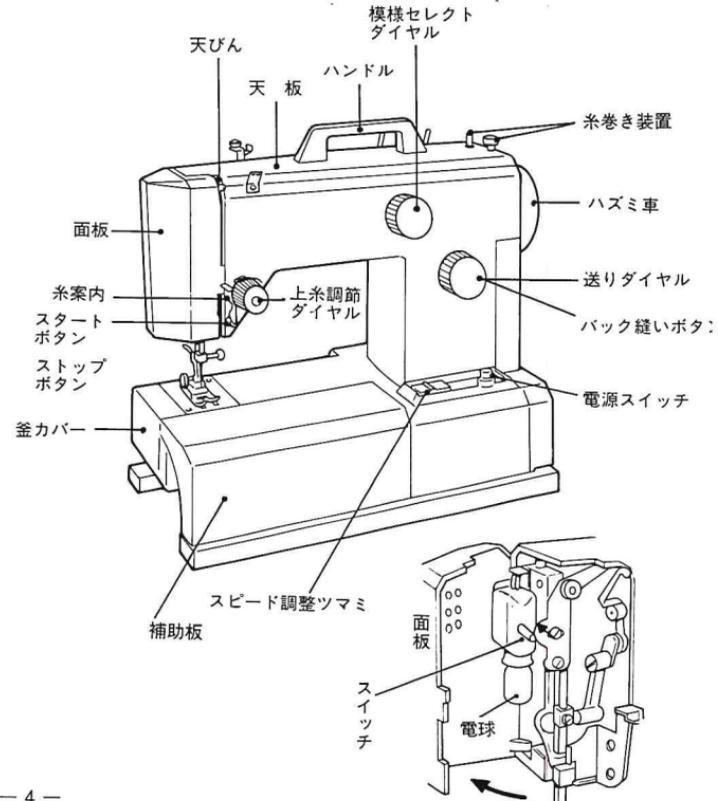
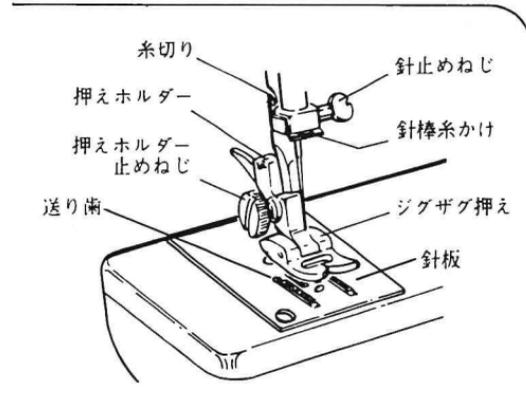
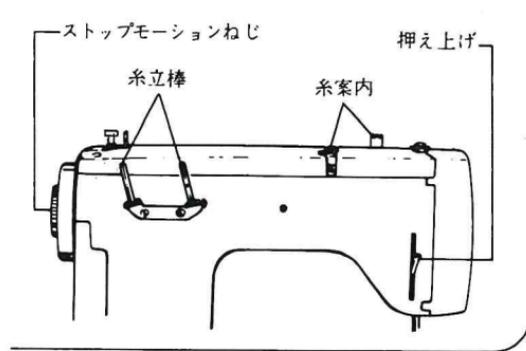
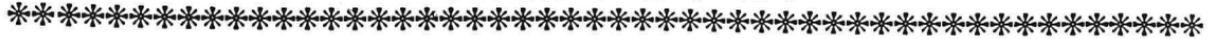
自動模様縫い

ジグザグ縫い	22
ブラインドステッチ(まつり縫い)	23
ボタンホール縫い	24, 25
ストレッチステッチ(三重縫い)	26

附属品を使った応用縫い

ファスナーつけセット	27
刺しゅう縫いセット	28
裁ち目かがり(縁かがり)	29
ミシンの手入れ	30
注油の個所	31
調子よく縫えない原因	32

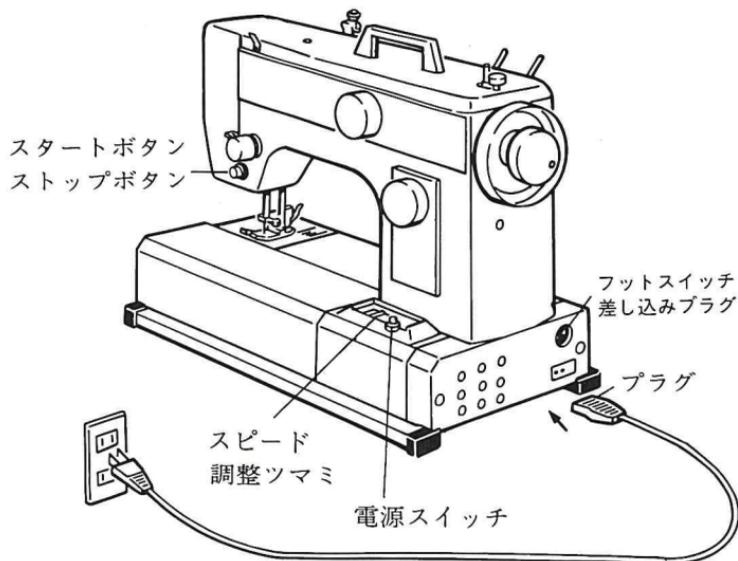
※部品の名まえ※



通電と始動の方法

〔注〕ミシンの使用中は、子供に直接手を触れさせないようにして下さい。

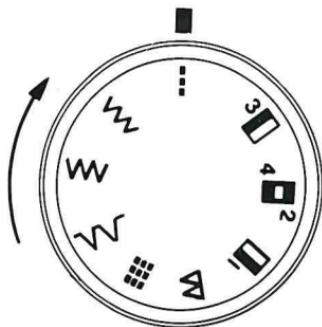
又、ミシンを使用しない時は、電源コードを必ず室内コンセントから外して下さい。



- ①電源コードの差し込み(プラグ)を形状に合せて矢印の方向に差し込んで下さい。
- ②電源スイッチを押しますとONの状態となり赤いランプが点灯し通電状態になっている事を表わします。もう一度押しますと電源が切れます。
- ③スタート・ストップボタンは、電源スイッチがONの状態(赤ランプが点灯している)の時のみボタンを押しますとミシンが回転します。もう一度押しますとミシンが止ります。
※使用後はかならずスタート・ストップボタンで止め、次に電源スイッチを切って下さい。
- ④スピードの調整はスピード調整ツマミを右にスライドさせると回転が早くなります。
★フットスイッチは含まれておりません。

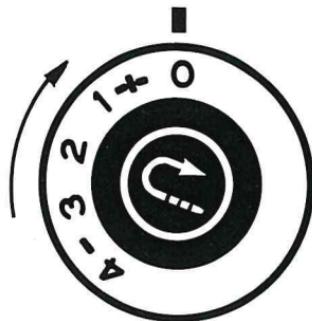
＊主な部品の働き＊

模様セレクトダイヤル



- 針棒を最上部に上げる。
- 模様セレクトダイヤルを回して、ご使用の模様にあわせて下さい。

送りダイヤル



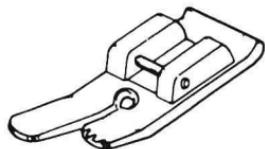
- ダイヤルを矢印の方向に回すと数字が大きくなり、前進の送り目が大きくなります。
- “0”の位置では布は送りません。

バック縫いボタン

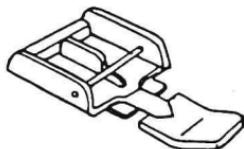


- 返し縫い、止め縫いのときに使います。
- ボタンを止まるまでいっぱいを押すと、押ししている間だけ返し縫いができます。

※ 附 属 品 の 内 容



直線縫い押え



ファスナー押え



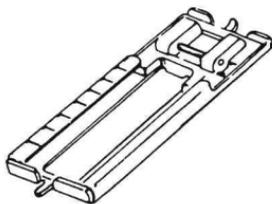
ミシン針



リッパー



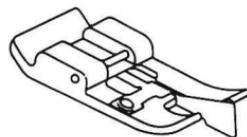
油さし



ボタン穴かがり押え



ドライバー (大, 小)



縁かがり押え



ボビン

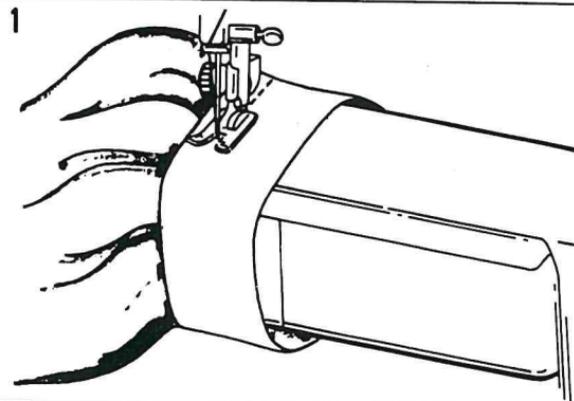


糸巻当て座



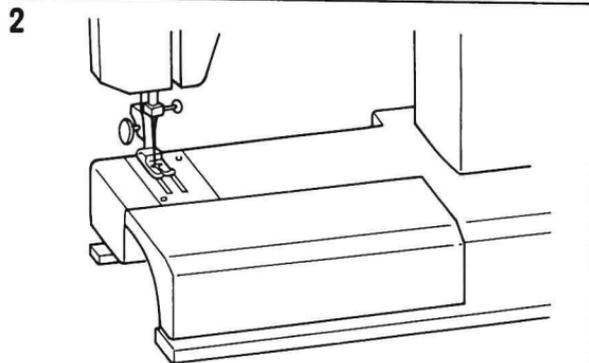
刺しゅう板

※ フリーアームミシンの特徴



※縫いの範囲が一段と拡大

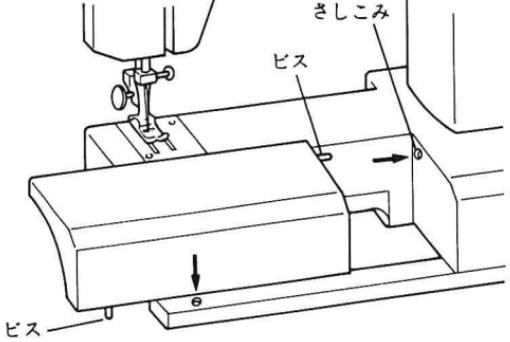
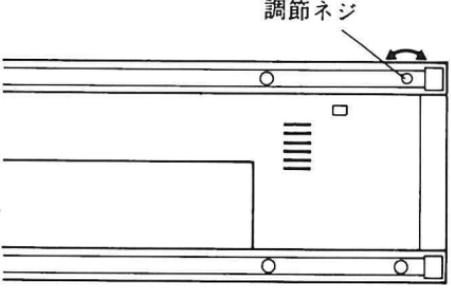
- フリーアームミシンの最大の特徴は洋服の袖、ズボンの裾、靴下など筒状、袋物が自由に縫えることです。
- 筒型ベッドにさしこんで、くるくると回わしながらお縫い下さい。



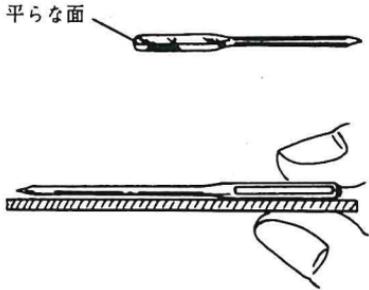
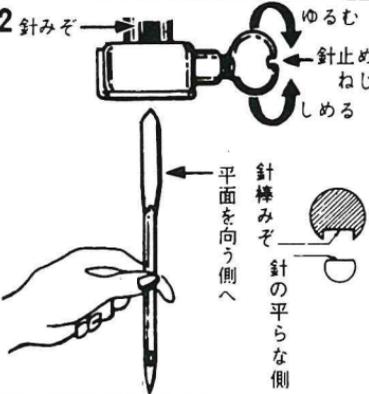
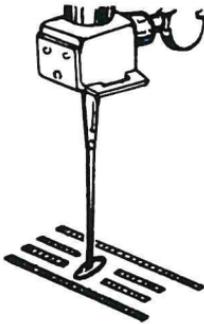
※補助テーブルをつけると普通ミシンに変身

- カーテン、テーブル掛けなど巾広い布地の場合は補助テーブルをつけると、普通ミシンと全く変らぬ威力を発揮します。

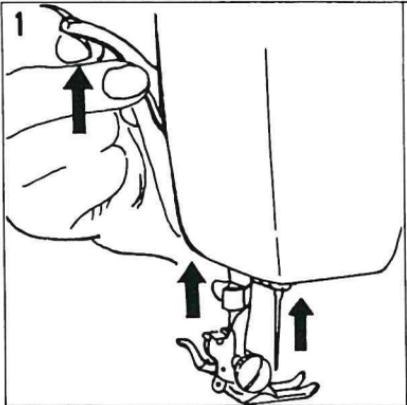
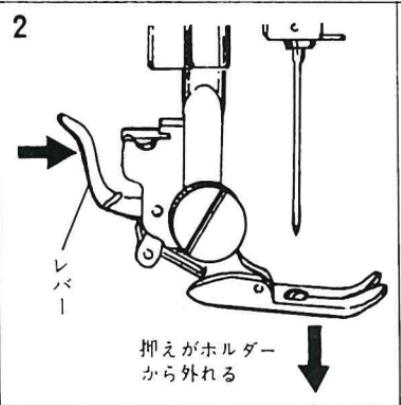
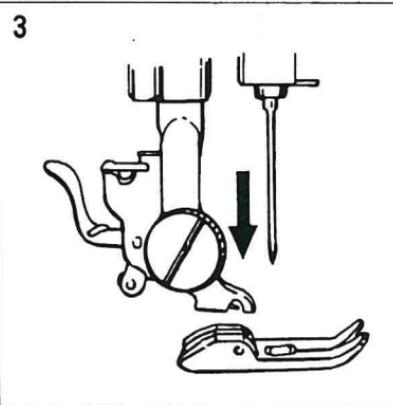
※ 補助テーブルの扱い方

<p>1</p> 	<p>2</p> 
<p>※補助テーブルの取り付け</p> <ul style="list-style-type: none">• 補助テーブルは、さしこみとビスを合わせるだけで簡単に取り付けられます。	<p>※ミシンベースの調整</p> <ul style="list-style-type: none">• ミシンの本体にガタつきがあり縫いにくい場合には、ベースの調節ネジを前後に回わしながらミシンの安定を調整下さい。

※ 針の取りつけ方

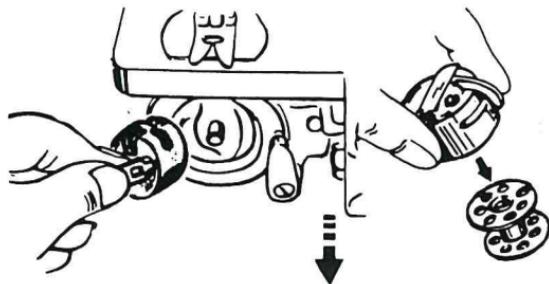
<p>1</p> 	<p>2</p> 	<p>3</p> 
<ul style="list-style-type: none"> • 曲った針では、きれいに布地が縫えません。 • 針の曲りを調べるには、平らな物の上にのせ、針の平らな面を当て明らなところですかして見ます。 • 針の下側のスキマが平均に見えるのが良品です。 	<ul style="list-style-type: none"> • はづみ車を手前に回して針棒を最上部に上げる。 • 針止めねじをゆるめる。 • 針の平らな面を針棒の針みぞの方へ向けて深く上に突きあたるまで差し込む。 • 針止めねじでかたくしめる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 針を取り付けた場合は必ず、正しく取り付けられたかを調べてください。 • はづみ車を手前にゆっくり回し、針先が針穴の中心に落ちれば、正しい状態です。 <p>※この時、模様セレクトダイヤルを直線縫いの状態にセットしてから針落ちをしらべて下さい。</p>

※ 各種押えの取りかえ方

<p>1</p> 	<p>2</p>  <p>レバー</p> <p>押えがホルダーから外れる</p>	<p>3</p> 
<ul style="list-style-type: none"> 針を最上部に上げ押え上げにより、押えを上げる。 	<p>※取りはずし</p> <ul style="list-style-type: none"> 押えホルダーのレバーを手前に押すと、押えが簡単に外れます。 <p>※押えホルダーの止めねじは、外さなくても押えは外れます。</p>	<p>※取りかえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用になる押えを、押えホルダーのちょうどま下にくるように置く、 しずかに押え上げを下しますとセットされます。 <p>※どの押えも、この要領で簡単に取り外し、又セット出来ます。</p>

＊ボビンケースの取り出し、取りつけ方

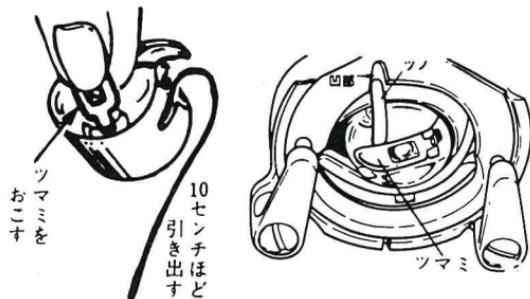
1



＊取り出し

- 針を最上部に上げます。
- ＊針を上げないとボビンケースはとりだせません。
- 釜カバーを手前に開いてから、ボビンケースのツマミをいっぱいにおこして、とり出します。
- ボビンケースからボビンを出すときはツマミを閉じて、ボビンを下向きにすれば、ボビンがとり出せます。

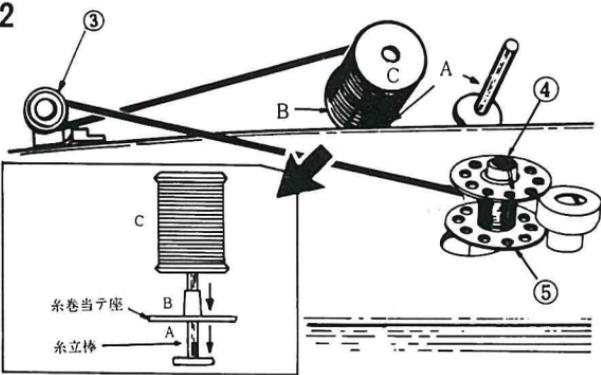
2



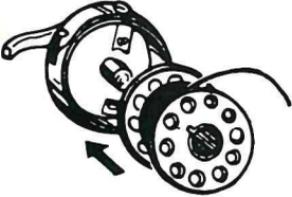
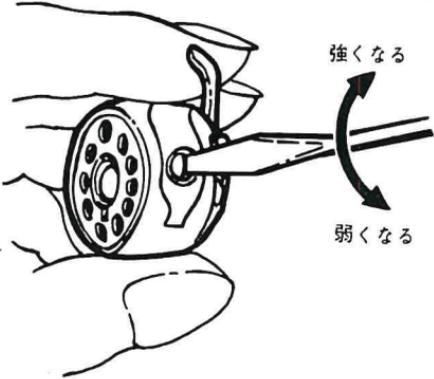
＊取りつけ

- ボビンケースのツマミをいっぱいにおこせば、ボビンはおちません。
- ボビンケースから糸はしを10cmほど手前に引き出しておきます。
- 針を最上部に上げてから、ボビンケースのツマミをもって中ガマに入れ、カマの凹部へボビンケースのツノがキチンとはまるまでいっぱいにしこみます。

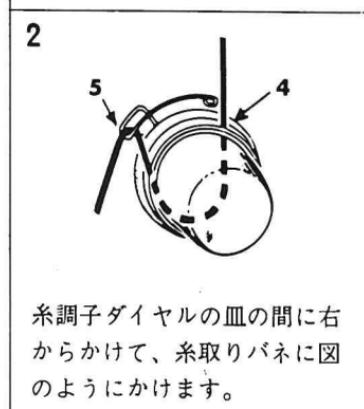
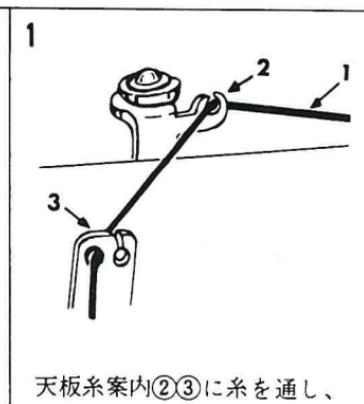
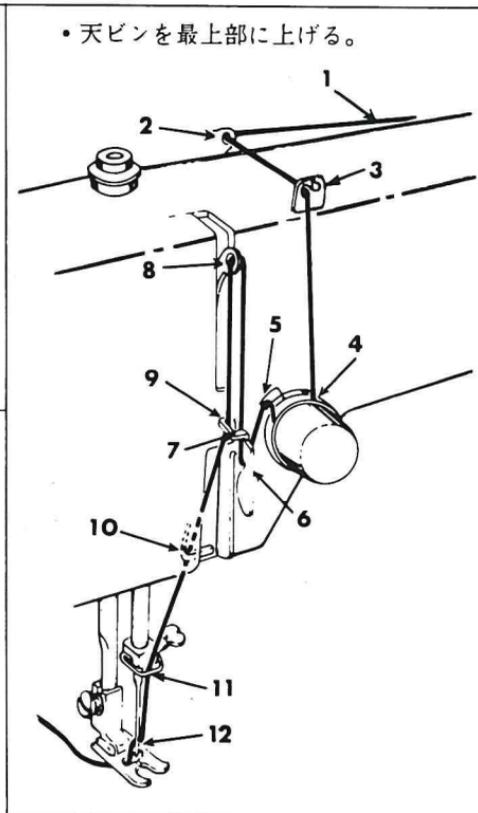
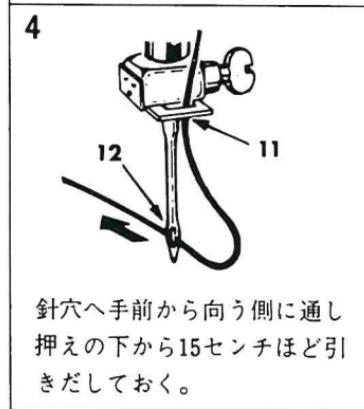
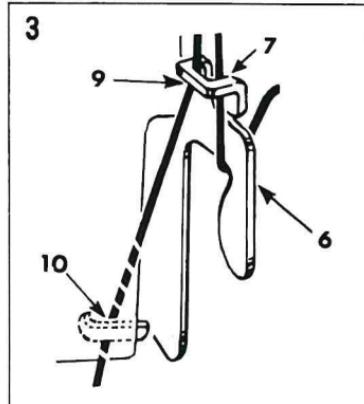
＊下糸の巻き方

<p>1</p>  <p>はずみ車 ① ストップモーション ②</p>	<p>2</p>  <p>③ C A B ④ ⑤ 糸巻当テ座 糸立棒 C B A</p>	<p>巻き方</p> <p>正しい</p>  <p>悪い</p>   
<p>＊はずみ車をゆるめる</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボビンに下糸を巻く場合は、はずみ車①を左手で押え、右手でストップモーション②を矢印方向に回しますと、針の運動とは関係なくはずみ車だけから回りするようになっています。 • 糸を巻き終わりましたらはずみ車を左手で固定し、ストップモーションねじを右手でもとどりにきつくしめます。 	<p>＊下糸をまく</p> <ul style="list-style-type: none"> • 糸立棒④に糸巻当テ座⑥を図のように入れ、糸ごま⑦をさし、天板糸案内③に図のように通してから、糸の先をボビンに7、8回巻きつけて糸巻軸④にさし込み、そしてはめこんだボビン⑤を右に押しますとボビン押えの掛金はずれてボビンを押えますから、ミシンをゆっくり運転しながら巻きはじめ、ボビンに糸が充分巻かれますとボビンの回転は自動的に停止致します。 <p>(備考) 仕事の途中でもストップモーションをゆるめればミシンが回転しませんがボビンに糸を巻くことができます。</p>	

＊ ボビンケースに下糸の通し方

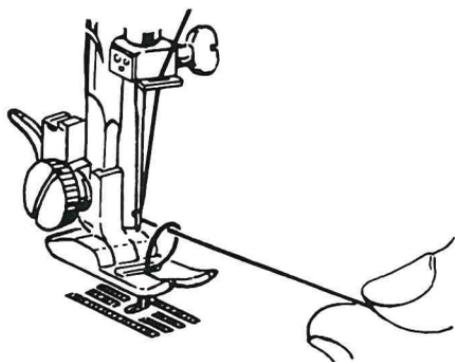
<p>1</p> 	<p>2</p> 	
<p>糸を10cmほど出し、糸の方向を図のようにして、ボビンケースの中軸にはめ込む。</p>	<p>糸の端をボビンケースの糸道に入れる。</p>	
<p>3</p> 	<p>4</p> <p>＊下糸の調節</p> <ul style="list-style-type: none"> • 下糸がスルスル出たり、重すぎて糸が切れたりしないように、てきとうな重みに調節します。 • 小型ドライバーで、ボビンケースの調節ネジを図の方向に回して調子バネの強さを加げんして下さい。 	
<p>糸道を通して、調子バネの下をくぐらす。</p>		

＊上糸のかけ方



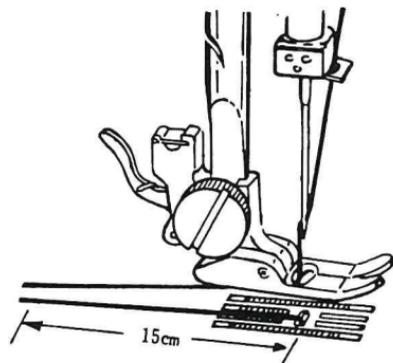
* 下糸の引き上げ方

1



- 押え上げを上げる。
- 上糸の端をもち、ハズミ車を手前に1回転させ、再び天ピンが最上部へきたら、上糸を引くと針穴から下糸が輪になってあがってきます。

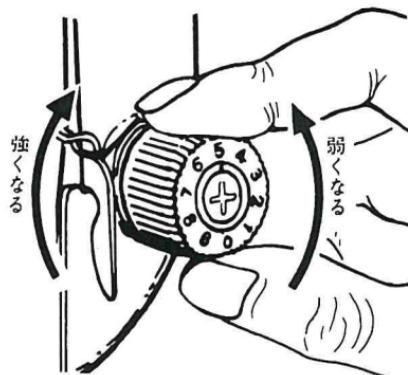
2



- 上糸と下糸をそろえて、押えの下をくぐらせ向う側え15センチほど出しておきます。
- ※糸は必ず向う側におかないと、糸がからみます。

※ 上糸調子のとり方

1



- 上糸調子器を右に回すと、糸の張力が強くなる。
 - 左に回すと糸の張力が弱くなる。
- ※ 0～9までの数字は大きくなるほど糸の張力が強くなることをあらわしますが、普通5以下でお使い下さい。

2

• 直線縫いの場合



• ジグザグ縫いの場合



• 上糸の張りが強すぎる場合



- 直線縫いの場合は糸調子は、布地の中央で上糸と下糸が交さしているのがよい糸調子です。
- ジグザグ縫いの場合の糸調子は布地の裏側で上糸と下糸が交さるようにします。したがって直線縫いのときよりも少し上糸をゆるくしてください。

※ 一織物と布地・糸・針の関係一

	布 地 の 種 類	ミ シ ン 糸	ミ シ ン 針
極 薄 地	ベンベルグ及びデシン、絹 サラン、ジョーゼット、ボイル、オーガンジー、 ローン、ナイロン、レース等	極細刺しゅう糸 100番～120番カタン糸 50番～80番羽二重糸 100番ナイロン糸	9 番
薄 地	ブロード、ギンガム、綿混紡、タフタ、綿レース、 薄ウール、サテン、ポプリン等	80番～100番カタン糸 50番羽二重糸	11 番～14 番
普 通 地	ジャージ、ウール混紡、化繊、ベルベッテン、 ジャガード、木綿、カシミア、純毛織物等	50番～80番カタン糸 40番～50番羽二重糸	14 番
厚 地	オーバー地、コールテン、フェルト、 スウェードデニム、帆布、交織厚地等	30番～50番カタン糸 30番～40番羽二重糸	14 番～16 番

* 各ダイヤルのはたらき

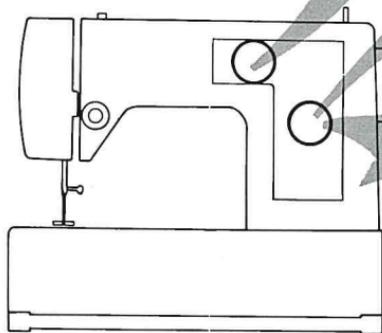
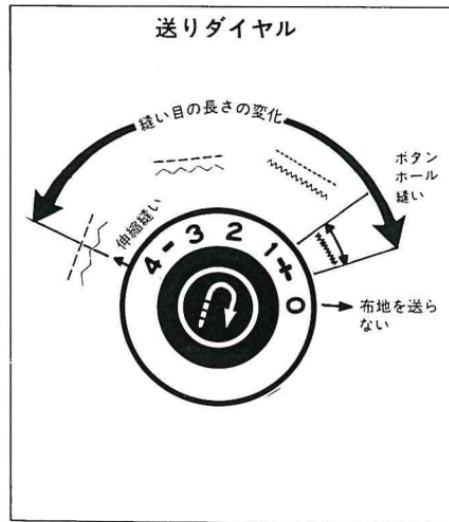
模様セレクトダイヤル

ボタンホール縫いの位置



- 直線縫い
- 〰 〰 ジグザグ縫い
- 〰 〰 プラインド・ステッチ (まつり縫いなど)
- ■ ■ 伸縮縫い(ジグザグ)
- △ 裁ち目かがり
- ボタンホール

送りダイヤル

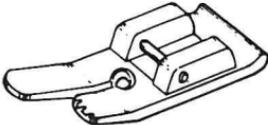
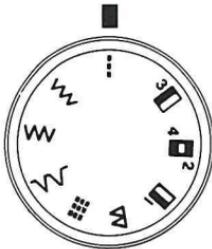
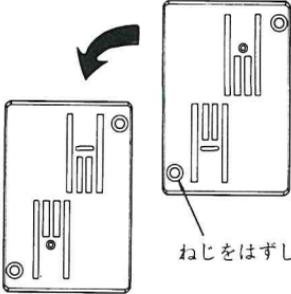


バック縫いボタン



- ・返し縫い、止め縫いのときに使います。
- ・ボタンを止まるまでいっぱい押しすと、押し続けている間だけ返し縫いができます。

＊ 直線縫いのセット

押 え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル	直線針板
<p>直線縫い用押へ</p> 		<p>0.5～4の適当な位置に 合わす</p>	<p>直線針板</p>  <p>ねじをはずして</p>

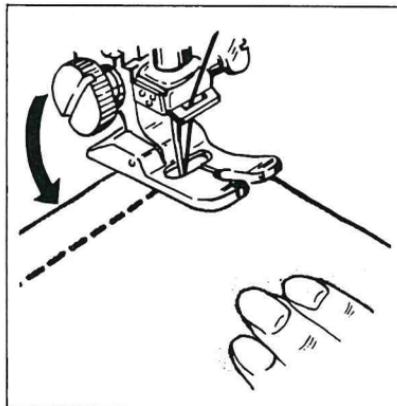
● 縫い方

※直線縫いを長時間されるとときには、針板を逆に取付け、アタッチメントの直線縫い押えをお使いになった方がよりきれいに縫い上がります。

(各種押えのとりかえ方＝P11の項参照)

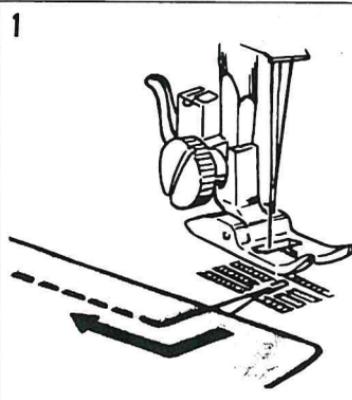
[注]直線縫い用アタッチメントに交換される場合は、模様セレクトダイヤルが上の図のようにセットされているか、たしかめてから行って下さい。

※ 縫い方向のかえ方

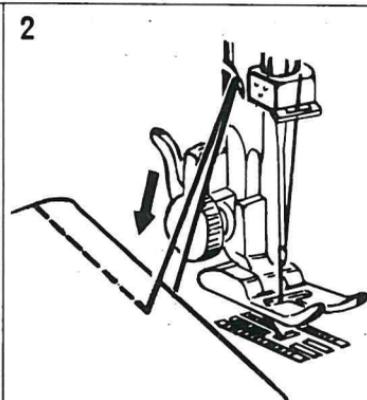


- まがる角で運転を止め、針を布に深くさしたままで押えを上げる。
- 針を中心に布をまわしふたたび押えをおろして縫い始める。

※ 縫いおわり



- 針が最上部に上ったとき運転を止める。
- 押えを上げて縫い物をしずかに左向う側へ引き出します。



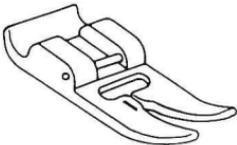
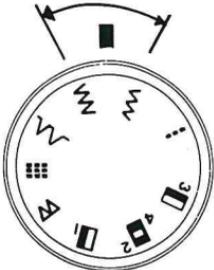
- 押え棒の糸切りに上下2本の糸を同時にかける。
- 両手で糸を下の方へ引くと糸が切れます。

バック縫いボタン

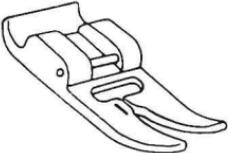
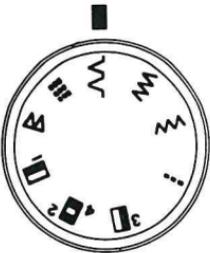


- 返し縫い、止め縫いのときに使います。
- ダイアルを止まるまでいっぱいには押し、押し続けている間だけ返し縫いができます。

※ ジグザグ縫いのセット

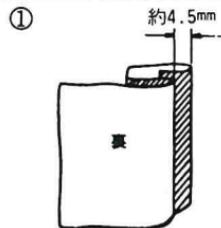
押 え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル
		<p>0.5～4迄の適当な位置に合わす。</p>

※ ブラインドステッチ(まつり縫い)

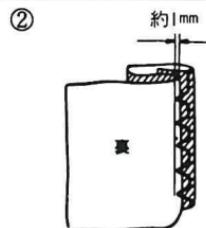
押え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル
<p>ジグザグ用押え</p> 		

●縫い方

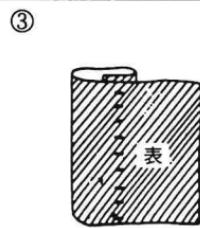
布地の表に縫い目が見えないように縫う方法です。
この縫い目はズボンやスカートのすそ、テーブル掛け、カーテンの端の折り返しなどに利用できます。



布地を、裏側が上になるようにして図のように三つ折りにし、折り曲げた上の布を4.5mmほどひかえます。

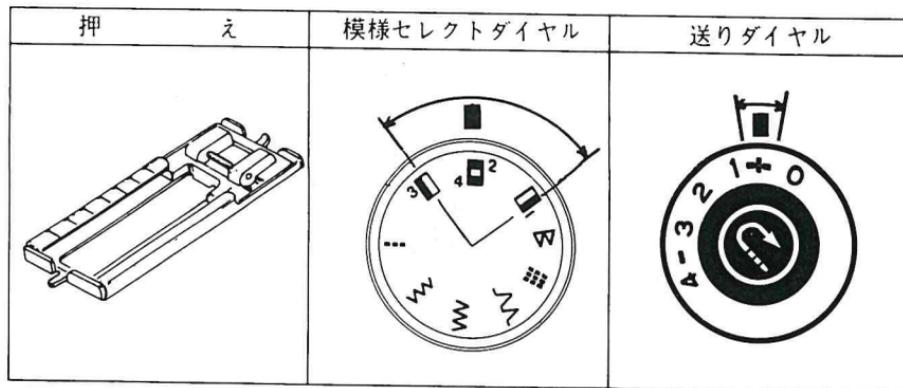


上の折り山を押えのガイドに軽く押しあてながら、左に落ちる針が上の折り山に約1mm程度かかるように縫います。



縫い終わりましたら布地を表にひろげます。

＊ ボタン穴かがりのセット



● 縫い方

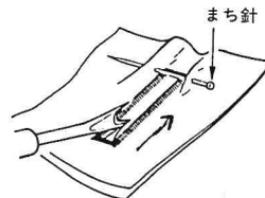
- ・ 上のように各部をセットした後、押えを後へいっばいに押し出してから次の図にしたがってお縫い下さい。
- ・ 縫い終わったら、リッパーでボタン穴を切り開きます。

縫いはじめ



押えを前にいっばいに押し出す

縫いおわり

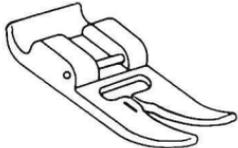
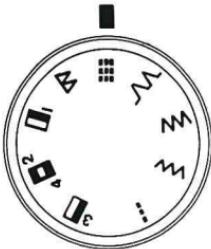


リッパーでボタン穴を切り開く
かんぬき縫いを切らないように
まち針をさす。

＊ ボタン穴かがりの順序

	1	2	3	4
ダイヤルのセット順 模様セレクト				
	数字1に合わせる	左に回わして2・4に合わせる	左に回して3に合わせる	ふたたび右にもどし2・4に合わせる
縫いの順位				
説明	右側から矢印の方向へ任意の長さまで縫う	右左に4～5針縫う	矢印の方向へスタートの位置まで縫う	右左に4～5針縫い止める

※ ストレッチステッチ(三重縫い)のセット

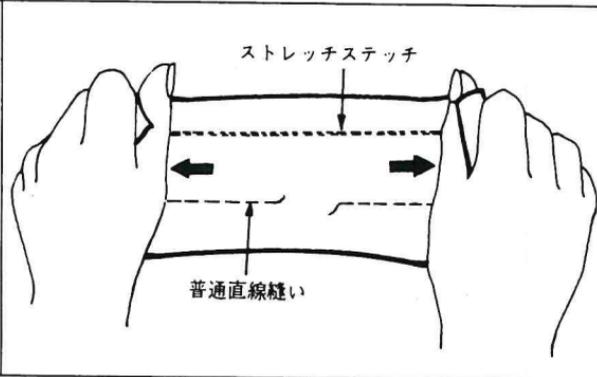
押 え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル
		

● 縫い方

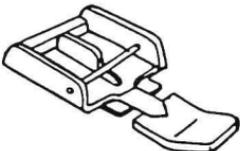
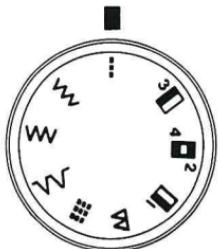
※伸縮性のあるジャージやトリコットを縫うとき、三重縫いをすると、布が伸びても糸切れすることなく、布地にぴったりの伸縮性をもたせることができます。

• ゴムテープの縫いつけにもご利用下さい。

※ニット等はうすい紙を布の下にひくと更にきれいに縫い上ります。



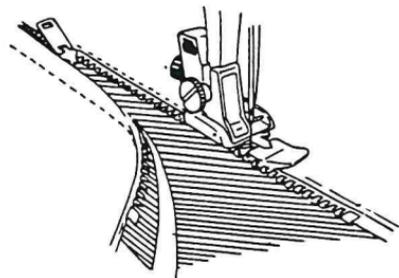
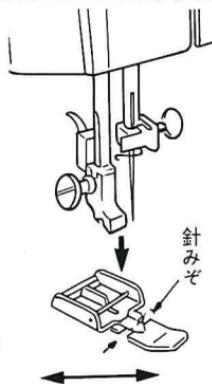
※ ファスナーつけのセット

押え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル
		<p>ダイヤル目盛1～3の適当な位置に合わせる。</p>

● 縫い方

押えは常に布地だけを押しファスナー金具を押しえないような位置へ合わせてください。押え側がファスナー金具に対して定規になるように合わせますとファスナーから針落ちまでのすきまがそろい美しく縫い上ります。

ファスナーを左右縫い合わせる時、左右のみぞに針をおとすように押えの位置をかえて下さい。



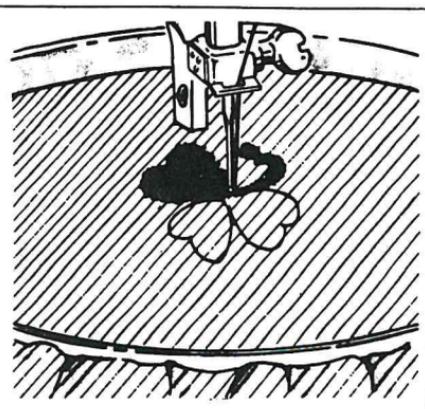
＊ 刺しゅう縫いのセット

押 え	模様セレクトダイヤル	刺しゅう板を針板にセットする
取りつけない		 <p>刺しゅう板</p> <p>針を最上部に上げ、針板の針穴と、刺しゅう板の針穴が合う様にしてセットします。</p>

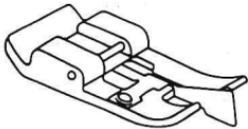
● 縫い方

- ・ジグザグ目盛りを最小にして、5～6針止め縫いをします。
- ・ジグザグ巾を一定にしておき、刺しゅう枠を横に動かして、全体をすきまなく刺し埋めていきます。
- ・ジグザグ目盛りを最小にして5～6針、最後の刺し目に沿って止め縫いをします。

〔注〕 下糸が出ないように上糸調節器を左に回し上糸をややゆるめて下さい。



※ 裁ち目かがり(縁かがり)

押え	模様セレクトダイヤル	送りダイヤル
<p>縁かがり押え</p> 		

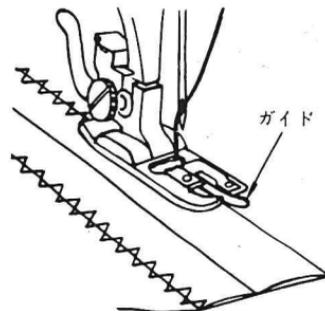
● 縫い方

ズボン、スカートなどの縫いしろのほつれを防ぐ縫いかたです。

- 裏地をつけない肩、股上、股下、袖下などにも利用できます。
- 縁かがり押えのガイドに布はしをぴったりあてて、縫いますと縫いちぢみがなく、まっすぐきれいに縫えます。

〈注意〉

- 縁かがり押えを使うときは模様セレクトダイヤルは必ず **B** で縫ってください。 **B** 以外で縫いますと針が押えにあたり危険です。
- ミシンスピードはゆっくり縫ってください。
- 薄い布地の場合は布はしを2つ折りにするときれいに縫えます。
- 糸調子は上糸と下糸が布地のはしで交差するよう調節してください。

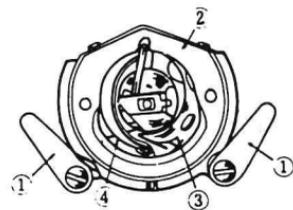


＊ミシンの手入れ

＊カマの掃除と扱い方

- 針を最上部に上げます。
- 釜カバーを開けて、ボビンケースを取り出します。
- 釜のふた押え①を両側に開き、ふた②を外して、中釜③を取り出します。
- 釜の内側及びドライブ④の汚れを取り、きれいな布にミシン油をつけてよく拭きます。

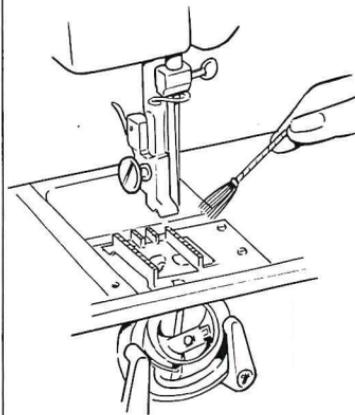
※掃除が終わったら反対の順序で取りつけて下さい。



＊送り機構の手入れ

針板と送り歯の間に糸くずやほこりが溜りますと、いろいろな故障の原因となりますので、常に清潔にして下さい。

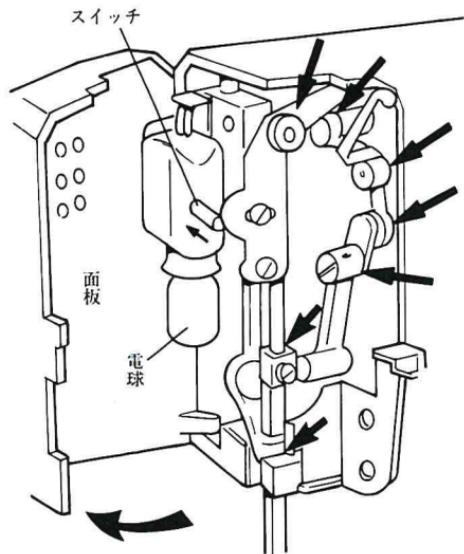
- 針を最上部に上げて、針を抜き取ります。
- ベットカバー板を取りはずします。
- 押えを取り外します。
- 針板も取りはずします。
- 送り歯の裏側のゴミをきれいに取り除きます。
- ハズミ車をゆっくり回して掃除がゆきとどいているかを確認してから反対の順序で部品を元の通りに取り付けて下さい。



※注油の個所(←印のところに差して下さい)及び電球の取替え方

1

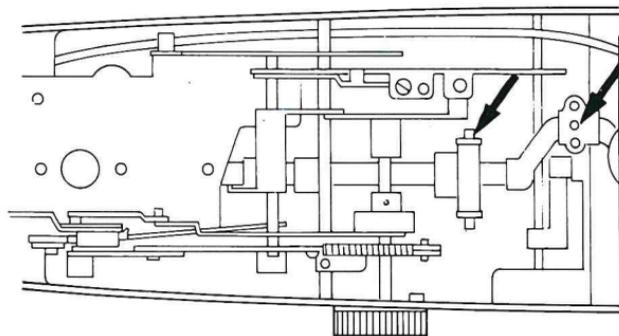
面板部



※面板を矢印の方向に開きます。

2

天板部



※天板止めねじ2個をドライバーで取り外し上の方向に天板を外して下さい。

※ 調子よく縫えない原因

<p>※布地が送らないのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 送り歯が下っている場合 • 針板が正しい位置に取り付けられていない場合 • ストップモーションがゆるんでいる場合 • 送り調節ダイヤルが“0”になっている場合 	<ul style="list-style-type: none"> • ボビンケースの調子バネを強く締めすぎた場合 • ボビンケースに糸の通し方が間違っている場合 <p>※目飛びがするのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 針を逆にはめたり、又は曲っている場合 • 針を完全に入れていない場合 • 粗悪な針を使用した場合 • 糸の掛け方が間違っている場合 • 糸屑が針板の下部に附着している場合 • 針、糸、布地との関係が悪い場合
<p>※針が折れるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 針を逆にはめたり、又は曲っている場合 • 布地を不当に引張った場合 • 針、糸、布地との関係が悪い場合（針、糸、布地の関係表を参照してください） 	<p>※縫い目に輪ができるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 上糸、下糸の調子が完全でない場合
<p>※上糸が切れるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 糸の掛け方が間違っている場合 • 針穴が不良である場合 • 針穴より太い糸を使用した場合 • 糸の調子を強く締めすぎた場合 • 糸が必要以外のところへからみついている場合 	<p>※縫い物にシワがよるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 糸調子が強すぎる場合 • 糸の掛け方が間違ったり、又はどこか余分な箇所に糸が引掛かっている場合 • 下糸がボビンに平均に巻かれていない場合
<p>※下糸が切れるのは</p> <ul style="list-style-type: none"> • 釜に糸がからみついている場合 	

8100 E